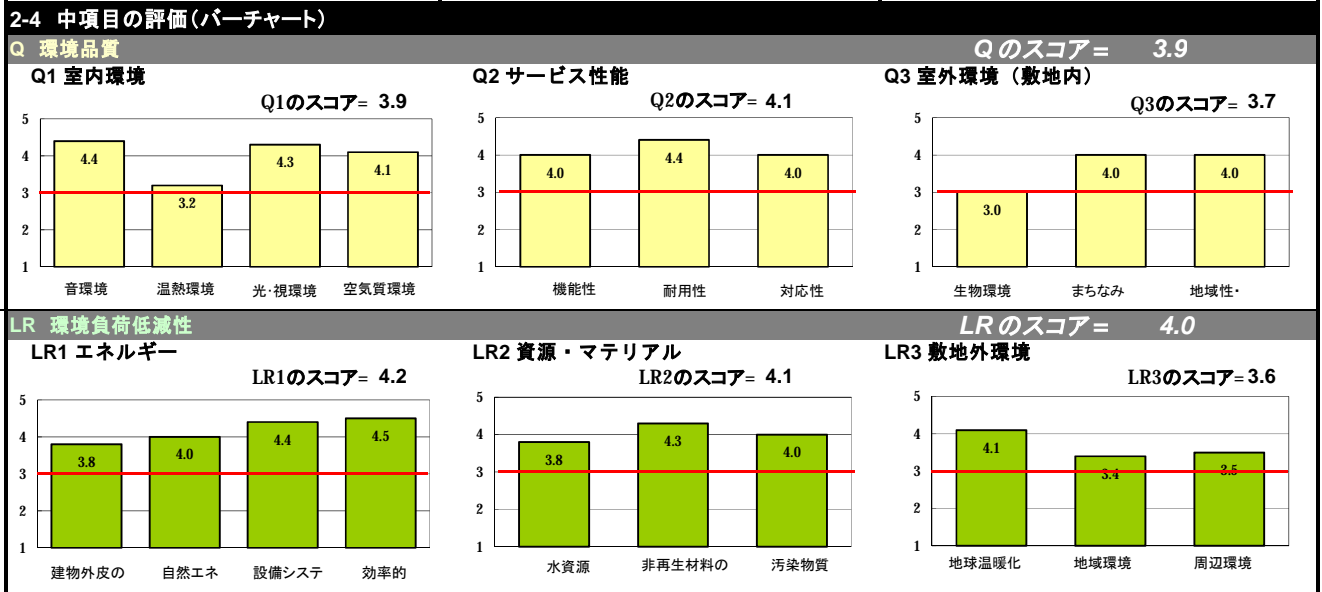
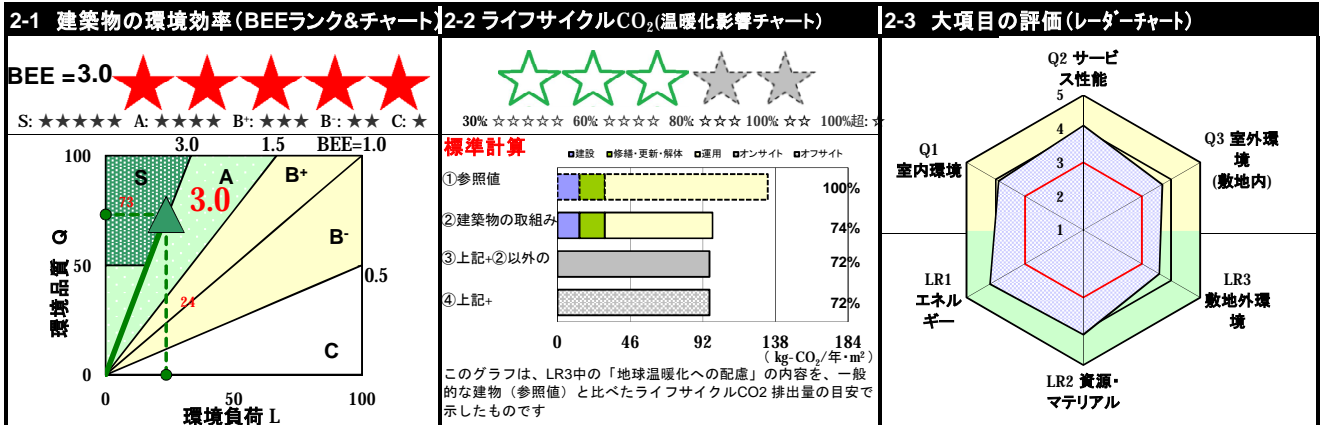


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	和泉市新庁舎整備工事	階数	地上7F
建設地	大阪府和泉市府中町二丁目	構造	S造
用途地域	第2種住居地域、防火地域指定なし	平均居住人員	0人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,920時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022/3/31 予定	評価の実施日	2021/2/17
敷地面積	13,617㎡	作成者	今川 与志雄
建築面積	2,211㎡	確認日	2021/2/18
延床面積	11,992㎡	確認者	北田 久晴



3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>耐用年数高い材料を使用し、ライフサイクルコストを低減している。また植栽を地上に積極的にしている。</p>		<p>その他</p> <p>特になし。</p>
<p>Q1 室内環境</p> <p>開口部遮音性能 T-2。壁と天井の二面に吸音材を使用している。昼光率: 5.46%。そして、照度は500lx以上。また、JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用し</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>免震建物であり、耐用年数が高い内装仕上げ材と給排水配管材を使用している。そして事務室の天井高: 2.7m、階高は3.9m以上。また、壁長さ比率: 0.17。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>周辺のまちなみや景観に対して、標準以上の配慮が行われている。内装材にいずれもを使用している。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>外皮性能が高い。BEIm 0.66。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>節水コマを使用している。そして雨水利用システムを導入している。また、吹付け硬質ウレタンフォームA種1を使用している。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>ライフサイクルCO₂排出率が、一般的な建物(参照値)に対して72%。交通負荷や廃棄物処理負荷抑制に取り組んでいる。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

R2-変-0028

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】		建物名称	和泉市新庁舎整備工事							
		建設地	大阪府和泉市府中町二丁目							
		用途/区分	事務所							
【評価結果】		CASBEE 総合評価					S			
①	CO2削減					4				
②	みどり・ヒート アイランド対策					3				
③	建物の断熱性					4				
④	エネルギー削減					4				
⑤	自然エネルギー直接利用					○				
		再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	○	風力	—	地熱	—		—
			太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—		—
エネルギー消費量の報告						報告しない				
【評価項目】										
項目		評価内容				スコア	評価			
① CO2削減		CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価				4.1	4			
② みどり・ヒートアイランド対策										
生物環境の保全と創出		CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価				3.0	3			
敷地内温熱環境の向上		CASBEE「Q3-3.2」のスコアによる評価				3.0				
温熱環境悪化の改善		CASBEE「LR3-2.2」のスコアによる評価				3.0				
③ 建物外皮の熱負荷抑制		CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価				3.8	4			
④ 設備システムの高効率化		CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価				4.4	4			
⑤ 自然エネルギー利用		CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価				4.0	○			
エネルギー消費の実態把握に努める		エネルギー消費量の実績を3年間報告する。				報告する 報告しない	報告しない			
その他										
		技術の名称			考慮事項					
先進的技術の導入										
特に配慮した事項		太陽光発電システム導入している。発電容量40.92kW。								